

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年2月20日

中国運輸局

評価対象事業名: 離島航路運営費等補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
広島県離島航路 確保維持協議会	(有)阿多田島汽船	阿多田～小方航路	船齢が16年経過し修繕費が多額になりつつあるが、船舶修繕費等の経費削減に努めた。また、「海上釣り堀」については、利用者が年々増加し、島民利用が減少する中で確実に増収につながっており、付船等により対応するなど、釣り客の増加に最大限協力し、運賃収入の増加を図った。	A	B	島内人口が減少傾向にあるため、島民の利用増は見込めないが、「海上釣り堀」2社が筏を増設し、リピーターによる固定利用客が、島民利用が減少する中でも確実に増えており、今後も付船等により対応するなど、釣り客の増加に最大限協力し、運賃収入の増加を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 概ね目標として設定している運航回数を達成しており、事業は適切に実施されていると評価できる。 今後も釣り客の増加が見込まれるため、利用者の要望やニーズを的確に把握し、利便性の向上及び利用客の増加に努めていただきたい。 	
	走島汽船(有)	走島～鞆航路	利用者の利便性向上と船員の拘束時間を検討するためのアンケートを実施した。利用者の声を聞き、ダイヤ改正を行った。また、ダイヤ改正をしたことで船員の拘束時間緩和につながった。	A	B	安全、安心の航路運営に努め、走島住民のニーズに対応する。また、島内にわかめの陸上養殖場が整備される予定で、フェリー利用の拡大が期待される。	<ul style="list-style-type: none"> 概ね目標として設定している運航回数を達成しており、事業は適切に実施されていると評価できる。 島内に陸上養殖場の整備も予定されていることから、利用者の要望やニーズを的確に把握し、利便性の向上及び利用客の増加に努めていただきたい。 	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
広島県離島航路 確保維持協議会	備後商船(株)	常石～尾道航路	航路改善協議会の中で、老朽化の著しい船舶を小型化して更新することで、船員費、修繕費の削減を図ることを検討している。 また、引き続き船員による船舶の修繕・保守作業を行うことで、修繕費の改善を行った。	A	B	利用実態に合わせた航路改善を継続的に検討していく。 船舶の更新については、航路改善協議会の中で、今後検討していく。	・概ね目標として設定している運航回数を達成しており、事業は適切に実施されていると評価できる。 ・今後も運航経費の削減や地域関係者等との連携等を行うことにより離島住民の生活に必要な航路の維持・確保が図られることを期待する。	
	尾道市	細島～西浜航路	運航収入は前年度比で2割弱減収となった。 軽油価格の高騰及び緊急修繕対応により、燃料費と船舶修繕費は前年度より増加した。	A	B	利用者の実態に合わせた航路改善を継続的に検討していく。 また、経費削減による運航収支の改善に継続的に努める。	・概ね目標として設定している運航回数を達成しており、事業は適切に実施されていると評価できる。 ・今後も運航経費の削減や地域関係者等との連携等を行うことにより離島住民の生活に必要な航路の維持・確保が図られることを期待する。	
	大崎上島町	白水～契島航路	交通対策協議会等で航路に対する問題や課題について検討している。	A	B	人口が減少傾向にあるため、運航収入の増加は見込めない。 経費削減により運航収支の改善に努める。	・概ね目標として設定している運航回数を達成しており、事業は適切に実施されていると評価できる。 ・今後も運航経費の削減や地域関係者等との連携等を行うことにより離島住民の生活に必要な航路の維持・確保が図られることを期待する。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
広島県離島航路 確保維持協議会	齋島汽船株	齋島～久比航路	<p>島内人口の減少及び島民の高齢化が進み、旅客運賃等の収入が前年度に比べ減少した。</p> <p>また、費用面においては、原油の高騰による燃料費の増加があったものの、船舶修繕費の減少等により、前年度に比べ減少した。</p> <p>なお、経常損益は、ほぼ横ばいとなった。</p>	A	B	<p>島民人口の減少等により、収入の増加は見込めない中で、船舶の老朽化等により費用の増加が見込まれる。</p> <p>こうした中で航路を維持していくため、運航便数や寄港地の見直しについて検討を行う。</p>	<p>・概ね目標として設定している運航回数を達成しており、事業は適切に実施されていると評価できる。</p> <p>・運航便数や寄港地の見直しを検討される場合は、利用者の要望・ニーズを的確に把握し、利便性の確保及び収支改善が図られるよう努めていただきたい。</p> <p>・今後も運航経費の削減や地域関係者等との連携等を行うことにより離島住民の生活に必要な航路の維持・確保が図られることを期待する。</p>	
	齋島汽船株	三角～久比航路	<p>島内人口の減少及び島民の高齢化が進み、旅客運賃等の収入は減少した。</p> <p>また、費用面においては、原油の高騰による燃料費の増加があったものの、船舶修繕費の減少等により、前年度に比べ減少した。</p> <p>なお、船舶修繕費の減少等により、経常損益は若干改善した。</p>	A	B	<p>島民人口及びみかん生産農家等の減少により、収入の増加は見込めない中で、船舶の老朽化等により費用の増加が見込まれる。</p> <p>こうした中で航路を維持していくため、適正な運航便数について検討を行う。</p>	<p>・概ね目標として設定している運航回数を達成しており事業は適切に実施されていると評価できる。</p> <p>・運航便数の見直しを検討される場合は、利用者の要望・ニーズを的確に把握し、利便性の確保及び収支改善が図られるよう努めていただきたい。</p> <p>・今後も運航経費の削減や地域関係者等との連携等を行うことにより離島住民の生活に必要な航路の維持・確保が図られることを期待する。</p>	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
岡山県離島航路 確保維持協議会	三洋汽船(株)	笠岡～飛鳥～六島 航路	運航経費の削減に努め、安 定的な航路の維持を図った。	A	A	島しょ部住民の高齢化や人口 減少が進む中、今後も引き続 き、運航事業者と行政が連携を 図りつつ、島しょ部のイベント等 の活用や情報発信を行い、島 外利用者の誘致によって、航路 維持を図る。 また、離島航路確保維持計画 に基づき、寄港地の集約化を行 い、航路の効率化を図る。	・航路において目標としてい る旅客輸送人員を達成してお り、事業は適切に実施されて いると評価できる。 ・引き続き、島のイベント等、 地域一体となった利用促進 及び情報発信に取り組んで いただきたい。	
	三洋汽船(株)	笠岡～佐柳本浦航 路	運航経費の削減に努め、安 定的な航路の維持を図った。	A	A	島しょ部住民の高齢化や人口 減少が進む中、日本遺産認定 を起爆剤として、今後も引き続 き、運航事業者と行政が連携を 図りつつ、島しょ部のイベント等 の活用や情報発信を行い、島 外利用者の誘致によって、航路 維持を図る。 また、離島航路確保維持計画に 基づき、寄港地の集約化を行 い、航路の効率化を図る。	・離島航路確保維持計画によ る寄港地の集約化について は、計画のとおり進めていた だき、収支改善が図られるよ う努めていただきたい。 ・今後も運航経費の削減や地 域関係者等との連携等を行う ことにより離島住民の生活に 必要な航路の維持・確保が 図られることを期待する。	
	大生汽船(株)	大多府～日生航路	運航経費の削減に努め、安 定的な航路の維持を図る。	A	A	島しょ部住民の高齢化や人口 減少が進む中、今後も引き続 き、運航事業者と行政が連携を 図り、島しょ部の観光資源の活 用や情報発信を行い、島外利 用者の誘致及び離島住民の生 活を支える交通手段として航路 維持を図る。	・航路において目標としてい る旅客輸送人員を達成してお り、事業は適切に実施されて いると評価できる。 ・引き続き、島の観光資源の 活用等、地域と一体となった 利用促進及び情報発信に取 り組んでいただきたい。 ・今後も運航経費の削減や地 域関係者等との連携等を行う ことにより離島住民の生活に 必要な航路の維持・確保が 図られることを期待する。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
山口県生活交通 確保維持改善協 議会	萩海運(有)	見島～萩航路	<p>日々の点検を積極的に実施するとともに、運航時のエンジン出力を抑制することで燃料費や修繕費の経費削減に努めたが、燃料単価の高騰及び新船「ゆりや」のエンジン大型化に伴う燃料消費量の増加により、燃料費が前年度よりも増加した。</p> <p>一方、新船「ゆりや」の就航により、老朽化していた旧船「おにようず」の修繕費用が減少するとともに、旧船売却益として、87,588千円の収入があった。</p> <p>利用促進のため、島おこし団体等を通じて情報発信を行うとともに、リーフレット等の配布や観光協会が実施する滞在型観光事業への協力を行い、交流人口の増加を図った。</p>	A	B	<p>船舶のエンジン大型化に伴う燃料消費量の増加が見込まれるが、引き続き、日々の点検を積極的に実施し、運航時のエンジン出力を抑制するとともに、燃料については最低価格業者からの仕入れを行い、燃料費や修繕費の経費削減に努める。</p> <p>令和2年度から、萩市の補助事業を活用して、見島地区に生活店舗が開設される予定となっており、荷物運賃の微増が見込まれる。今後も、市が実施する離島振興事業との連携に努め、乗客・荷物輸送量の増加を図る。</p> <p>また、島おこし団体や観光協会等を通じて、更なる情報発信を行い、交流人口の増加に努める。</p>	<p>・利用者増減率は低下したものの、利用者の増加を目指して懸命の努力を重ねられており、事業は概ね適切に実施されていると評価できる。</p> <p>・船舶の大型化に伴い燃料費の増加が見込まれているが、引き続きエンジンの効率的な運用を行う等、経費の削減に努めていただきたい。</p> <p>・船舶代替により懸案であったバリアフリー化等による快適性の向上や航海の安全性向上が図られており、島のイベントや観光資源等を活かした利用促進及び情報発信の更なる取り組みを期待する。</p>	
	大津島巡航(株)	大津島～徳山航路	<p>今期は船員を1名確保し、前期の課題であった船員不足が解消され、継続して工場夜景クルーズ等の貸切運航も引き続き実施した。</p> <p>また、イベント時に臨時便を運航することで、利用者の増加に努めた。</p> <p>外部への情報発信では、自社のホームページを活用することにより、積極的に情報発信を行った。</p>	A	A	<p>大津島の島民減少による影響により、旅客運送は今後も減少すると見込まれるが、引き続き利用者増加に向けた利用促進を図るとともに、船費等の費用削減に努め、経営改善を図る。</p> <p>また、効率的な運航体制の構築については、周南市と連携し、検討を続ける。</p> <p>併せてHP等を活用した情報発信を継続する。</p>	<p>・利用者増加を目指して懸命の努力を重ねており、事業は概ね適切に実施されていると評価できる。</p> <p>・引き続き、工場夜景クルーズをはじめ、島のイベントや観光資源等を活かし利用促進及び情報発信に取り組んでいただきたい。</p> <p>・今後も運航経費の削減や地域関係者等との連携等を行うことにより離島住民の生活に必要な航路の維持・確保が図られることを期待する。</p>	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
山口県生活交通 確保維持改善協 議会	(有)野島海運	野島～三田尻航路	クルーズ事業を実施し、SNS 等を活用した情報発信を行い、 利用者の増加に努めた。	A	A	<p>地元自治会・市・航路事業者 等が連携を図り、クルーズ事業 の実施や離島側でのイベント開 催によって、交流人口の増加を 目指す。 また、SNS等の様々な広報媒 体を活用して、広くPRすること で利用実績の拡大に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者増加を目指して懸命 の努力を重ねており、事業は 概ね適切に実施されていると 評価できる。 ・引き続き、クルーズの実施 や島でのイベント開催等によ り、利用促進及び情報発信に 取り組んでいただきたい。 ・今後も運航経費の削減や地 域関係者等との連携等を行う ことにより離島住民の生活に 必要な航路の維持・確保が 図られることを期待する。 	
	岩国柱島海運(株)	岩国～柱島航路	<p>経費節減に努め、船舶修繕 費等の減少により運航経費が 減少した。 柱島漁協の団体旅行の移動 手段としての利用や、市内小学 校の柱島自然教室による利用 があり、利用促進が図られた。 地域関係者と連携し、登山道 の整備を行うことで、レジャー客 の確保に向けた取り組みを行っ た。 また、地域おこし協力隊作成 (H28)の「柱島群島みどころ マップ」を市役所や会社窓口で 引き続き配布するとともに、 Facebook等による情報発信も 引き続き行い、利用促進に努 めた。</p>	A	A	<p>引き続き船舶修繕費等の経費 節減に努める。 島の過疎・高齢化により利用 者が減少しているが、島のイベ ント・レジャー資源等を活かし利 用促進を図る。 また、「柱島群島みどころマッ プ」の配布、Facebook等を活用 して情報発信を継続する。 なお、輸送量(年間利用者数) の目標値については、過疎・高 齢化(高齢化率85.8%)の状況 を踏まえ、より適切な数値を検 討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者増加を目指して懸命 の努力を重ねており、事業は 概ね適切に実施されていると 評価できる。 ・引き続き、島のイベントやレ ジャー資源等を活かし、地域 と一体となった利用促進及び 情報発信に取り組んでいただ きたい。 ・今後も運航経費の削減や地 域関係者等との連携等を行う ことにより離島住民の生活に 必要な航路の維持・確保が 図られることを期待する。 	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
山口県生活交通 確保維持改善協 議会	牛島海運(株)	牛島～室積航路	コミュニティセンターや光市地 域公共交通協議会等と連携し た不定期航路事業の取組みに より貸切便運航料を確保し、 Facebookを活用した情報発信 を行った。 また、船舶修繕費の経費削減 に努めた。	A	A	島の過疎・高齢化に伴い利用 者が減少する中で、航路を維持 するために、コミュニティセン ターや光市地域公共交通協議 会等との連携による不定期航 路事業への取組みやFacebook 等を活用した情報発信等により 利用促進を図る。 また、経営健全化の観点から 運賃改定に向けた検討を進め るとともに、引き続き船舶修繕 費等の経費削減に努める。	・利用者増加を目指して懸命 の努力を重ねており、事業は 概ね適切に実施されていると 評価できる。 ・引き続き、島のイベント、貸 切運航等、地域と一体となっ た利用促進及び情報発信に 取り組んでいただきたい。 ・今後も運航経費の削減や地 域関係者等との連携等を行う ことにより離島住民の生活に 必要な航路の維持・確保が 図られることを期待する。	
	平郡航路(株)	平郡～柳井航路	平郡島の地域おこし協力隊員 がFacebook等を通じて島の情 報発信を行った。 JRふれあいウォークの企画 により、島外から17名の団体客 の利用があった。	A	A	島の過疎・高齢化に伴い、利 用者が減少する中で航路を維 持するために引き続き島の宣伝 を行い、観光客、釣り客の誘致 を図るとともに、地元関係者と 協力し、島民関係者の利用促 進に努める。	・各航路において概ね目標と して設定している運航回数を 達成しており事業は適切に実 施されていると評価できる。 ・引き続き、島のイベント等、 地域と一体となった利用促進 及び情報発信に取り組んで いただきたい。 ・今後も運航経費の削減や地 域関係者等との連携等を行う ことにより離島住民の生活に 必要な航路の維持・確保が 図られることを期待する。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
山口県生活交通 確保維持改善協 議会	周防大島町	久賀～前島航路	観光協会と連携し、Facebook 等を活用しながら、スナメリ ウォッチングやクルージング等 の観光客増加に努めた。	A	A	今後も県協議会のFacebook 等を活用するほか、観光協会と 連携し、スナメリウォッチングや クルージング等の観光客数のさ らなる増加に努めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者増加を目指して懸命の努力を重ねており、事業は概ね適切に実施されていると評価できる。 ・引き続き、スナメリウォッチングを中心とした観光資源を活用した利用促進及び情報発信に取り組んでいただきたい。 ・今後も運航経費の削減や地域関係者等との連携等を行うことにより離島住民の生活に必要な航路の維持・確保が図られることを期待する。 	
	周防大島町	伊保田～情島航路	SNSを利用した情報発信により釣り客を中心とした島外利用者の集客に努めた。 平成30年10月1日から1日5便から1日4便へ減便し燃料費等の抑制に努めた。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 目標を達成するため、SNSを利用した効果的な情報発信により、島外利用者の集客に努めていく。 1日4便での運航を継続し、航路利用者の利便性に配慮しながら効率的な運航を行い、燃料費等の費用抑制に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者増加を目指して懸命の努力を重ねており、事業は概ね適切に実施されていると評価できる。 ・航路改善協議会で検討を重ね、起終点の見直しに伴う減便を行う等、課題解決に向けた取り組みを確実に進められた点について、評価します。 ・今後も運航経費の削減や地域関係者等との連携等を行うことにより離島住民の生活に必要な航路の維持・確保が図られることを期待する。 	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
山口県生活交通 確保維持改善協 議会	周防大島町	樽見～日前航路	町商工観光課による体験交流型修学旅行誘致活動やFacebookによる情報発信等により、修学旅行者や釣り客の利用増加に努めた。	A	A	県協議会のFacebook等の活用、利用しやすい環境整備に取り組みながら、更なる体験交流型修学旅行や釣り客の利用を増やし増収を図っていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者増加を目指して懸命の努力を重ねており、事業は概ね適切に実施されていると評価できる。 ・引き続き、島のイベント等、地域一体となった利用促進及び情報発信に取り組んでいただきたい。 ・今後も運航経費の削減や地域関係者等との連携等を行うことにより離島住民の生活に必要な航路の維持・確保が図られることを期待する。 	
	上関町	八島～上関航路	イベントの開催や特産品開発などにより、島民や関係機関とが協力して、情報発信等を行い航路利用者の増加を図る取り組みを行った。	A	B	<p>室津港棧橋や航路待合所の整備により、乗降時の安全性や利便性が向上することで、利用者数の増加の取り組みを行っていく。</p> <p>また、引き続き、日常点検を積極的に実施するとともに、修繕費や燃料費の経費削減に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者増減率は低下したものの、イベントの開催や特産品の開発などにより利用者の増加を目指して懸命の努力を重ねられており、事業は概ね適切に実施されていると評価できる。 ・今後も運航経費の削減や地域関係者等との連携等を行うことにより離島住民の生活に必要な航路の維持・確保が図られることを期待する。 	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
山口県生活交通 確保維持改善協 議会	上関航運(有)	祝島～柳井航路	祝島港では、浮棧橋に続き待 合所の整備が進み、バリアフ リー化により乗降時の安全性 や利便性が向上した。 また、島民や関係機関と協力 して情報発信等を行い利用者 の増加に努めた。	A	A	浮棧橋や待合所等、島の受け 入れ体制も整ったことから、引き 続き行政、地元関係者と協力し 島のアピール行い、各種イベン ト等の開催等で釣り客、観光客 の集客に取り組む。 また、経費削減に努め、航路 運営の効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者増加を目指して懸命 の努力を重ねており、事業は 概ね適切に実施されていると 評価できる。 ・引き続き、島のイベント等、 地域一体となった利用促進 及び情報発信に取り組んで いただきたい。 ・今後も運航経費の削減や地 域関係者等との連携等を行う ことにより離島住民の生活に 必要な航路の維持・確保が 図られることを期待する。 	
	熊南総合事務組合	馬島～麻里府・佐 合島～佐賀航路	学校行事や島でのイベント等 に協力し、貸切運航や臨時便 の運航を行った。 経費の削減に努めたが、オー バーホールの実施により、船舶 修繕費が前年と比べて大きく増 加した。	A	A	高齢・過疎化により島民利用 者の増加が見込むことができな い状況であることから、島民以 外の利用者の増加を計るため、 引き続き島でのイベント等の実 施を田布施町・平生町へ働きか ける。また、経費の削減に努 め、経営の効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者増加を目指して懸命 の努力を重ねており、事業は 概ね適切に実施されていると 評価できる。 ・引き続き、島のイベント等、 地域一体となった利用促進 及び情報発信に取り組んで いただきたい。 ・今後も運航経費の削減や地 域関係者等との連携等を行う ことにより離島住民の生活に 必要な航路の維持・確保が 図られることを期待する。 	